



第3領域

「たしかな未来への たしかな架け橋」

(中長期目標設計とバックカスティング手法によるアクション設計)

この領域は、次世代からの視点で目標を定め、効果的で効率的な環境改善手法を考えることを目的としています。

地域住民と共に創る「サステナブル都市新宿」

＜研究・活動名＞“早稲田発”サステナブル都市「新宿」における地域共創型の温暖化対策推進に関する実証研究

＜代表者／団体＞早稲田大学環境総合研究センター准教授 小野田弘士
新宿区エコ事業者連絡会

都市部における温暖化対策の具体的な方法論をモデル的に提示することと、早大生をはじめとする地域市民のエコマインドを醸成し、率先実践型の人材を社会に輩出する基盤の構築を目標に、新宿区エコ事業者連絡会、早稲田大学の学生が、早稲田大学が保有する省エネ・省CO₂技術を活用して大学構内の自販機改良とその活用を中心に省エネ・省CO₂活動を進め、その手法の研究を行っています。

(2009年1月より半年に1回の審査を受けて継続中)

学生が未来のエコビジネスを開く

＜研究・活動名＞環境とビジネスのバランスを感受した学生を輩出するための研究・活動

＜代表者／団体＞早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 西尾哲茂
早稲田大学学生環境 NPO 環境ロドリゲス em factory

環境配慮型のビジネスモデルの構築や、環境とビジネスのバランスを感受し、実感と考え方を持ち合わせる学生人材を輩出することを目指し、全国学生環境ビジネスコンテスト em factory 2010 の開催や若い人をターゲットにした環境感受性の分析を行いました。

(2009年1月より半年に1回の審査を受けて継続中)



写真 上左：早稲田オリジナルの消灯中シール
 上右：新宿区ビジネスセミナーにおける展示
 （小野田プロジェクト）
 下：全国学生環境ビジネスコンテスト
 （西尾プロジェクト）

排出量取引が企業や地域に与える影響を探る

＜研究・活動名＞排出量取引が企業の環境経営及び企業価値形成にもたらすインパクトに関する実証的研究

＜代表者／団体＞山梨大学大学院医学工学総合研究部准教授 長谷川直哉 日本感性工学会価値創造部会

排出量取引が地域経済や企業システムにもたらす影響について、(1)(2)を中心に、地域との関連性を重視しながら研究を実施しました。

(1) 欧州域内の排出量取引制度の実態を踏まえ、国内および東京都の排出量取引制度の参加主体となる大企業および中小企業の経営行動の変化を実証的に分析し、企業経営における排出量取引の意義と課題を解明する。

(2) 東京都および山梨県の中小企業を対象に排出量取引に対する認識や経営行動にもたらす影響を調査し、サステナビリティ社会の実現に向けた社会経済システムの転換プロセスにおいて排出量取引がもたらす効果を推計する。

(2010年6月終了)

(第3領域 つづき)

学生が担う地域活性化と環境保全

＜研究・活動名＞学生ボランティアと地域活性化による環境保全の連携に関する研究と実践

＜代表者／団体＞早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター研究助手 加藤基樹
WAVOC まっだい早稲田じょんのびプロジェクト

新潟県十日町市を拠点に、次世代から要請されるボランティア・交流の形を模索しつつ、より多くの大学生に活動をアピールしていき、最終的には次世代への活動の継承について、幅広い年齢層の参加が可能なシステム構築の検討を研究テーマとしています。

地域と密着した冬季の雪かき支援、棚田米づくり、菜の花プロジェクト、地域の人々とともに創る広報誌などを通じて成果が上がっています。

活動内容や方法の精査だけでなく、学生が責任者となるプロジェクトに一般の方を引き入れる場合の問題点を具体的に検証することで、次世代に必要な農村活性化や交流、ボランティア活動への提言として提示することができ、今後のあり方に様々な示唆を与える結果を提出できると期待されています。

(2009年7月より半年に1回の審査を受けて継続中)



写真 上左：一人暮らしのお年寄への昼食作り

上右：2010年秋収穫

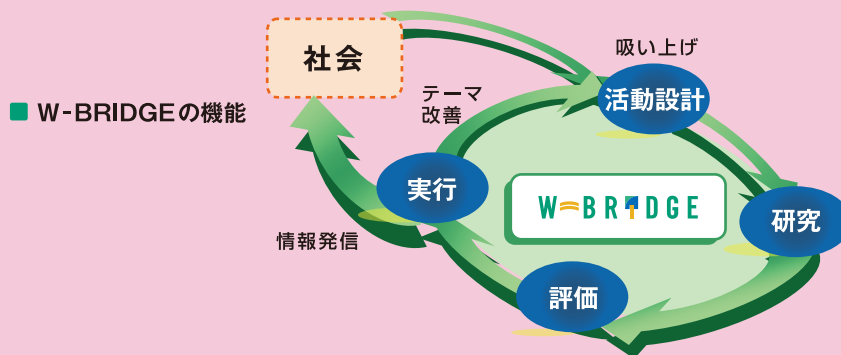
下：雪おろし

(全て加藤プロジェクト)

ハイレベルの情報を世界へ発信していく

代表代行 堀尾正鞠

環境や地球温暖化対策に向けたこれまでの取り組みでは、専門家による環境観測やデータ解析、あるいは先端的な技術開発だけが重視される傾向がありました。これからますます重要になるのは、問題解決のために、適正な技術を選んで、生活や社会の仕組みを総合的に作り直していくような、市民・大学・産業界の連携した研究や実践活動を作り出していくことでしょう。W-BRIDGE プロジェクトはまさにこの部分に重きを置いたものです。これからは、石油漬け社会からの脱却を目指し、W-BRIDGE の総力を挙げて、分野横断の学術・啓発誌「BRIDGE」の発行など、ハイレベルな情報を世界に発信する取り組みを進めたいと考えます。



ブリヂストンがW-BRIDGE に期待すること

株式会社ブリヂストン 環境推進本部長 平田 靖

W-BRIDGE では企業単独の環境活動あるいは特定の技術開発等狭い範囲の産学連携では決して得ることの出来ない成果をともに追求していきたいと考えています。産と学の視点だけでなく、生活者や地域の視点を重視した活動の推進に積極的に参画することにより、当社としても様々な要素を吸収し、ゴム農園と生物多様性のバランスといった課題、環境活動を推進するための指針や仕掛け作り等、環境経営活動に活かしていきたいと考えています。

★第3領域の新規採択案件

以下の2つの研究・活動が2010年7月から新たにスタートしています。

○企業のA-EMSとCSR-MSによる地域交流と健康増進（早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 黒澤正一／NPO法人栄村ネットワーク（長野県））

○女性生活者からみた環境・地域貢献のあり方に関する研究 ～地域版環境ベルマークへの基礎研究～（大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授 永田潤子／NPO法人中部リサイクル運動市民の会）